



江戸時代は幕府や寺、神社がおさめている土地が多かったようです。江戸がはってんするにつれて、野菜の産地として農業がさかんになりました。関東大しんさいのあと、都心から多くの人々がうつってきました。げんざいは、静かな住宅街の中に、道路の立体交差や、地下鉄の乗り入れ、高そう住宅のマンションなどができ、町なみがかわりつつあります。

わたしたち住む街の地形や土地利用、商店街や集落分布の様子がわかります。人々の生活は、自然環境と密接に関わっていることが理解できます。地図に親しむことで位置や地形をより広範囲に関連させて考える習慣が身につきます。記号をつかって絵地図に表現したり地図を読みとる力を養うことができます。